

## 平成30年度第1回宮古市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成30年11月28日(水) 午後6時から
- 2 場 所 イーストピアみやこ 市民交流センター 会議室3
- 3 協議事項
  - (1) 地元を知る教育について
  - (2) 保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について
- 4 出席者（7名）
  - 構成員

宮古市長	山本 正徳
宮古市教育委員会教育長	伊藤 晃二
宮古市教育委員会委員	荒谷 榮子
宮古市教育委員会委員	橋本 美紀
宮古市教育委員会委員	平井 亮吉
宮古市教育委員会委員	杉本 裕樹
  - 副市長

宮古市副市長	佐藤 廣昭
--------	-------
- 5 事務局からの出席者

総務部長	伊藤 孝雄
企画部長	松下 寛
保健福祉部長	中嶋 良彦
こども課長	伊藤 貢
こども発達支援センター所長	岡崎 薫
教育部長	大森 裕
教育委員会総務課長	伊藤 重行
学校教育課長	佐々木寿洋
生涯学習課長	田中富士春
文化課長	高橋憲太郎
教育委員会総務課副主幹	中嶋 剛
学校教育課学習指導係長	熊谷 純
- 6 傍聴人 一般：17名

平成 30 年度第 1 回宮古市総合教育会議 会議録

□ 日時：平成 30 年 11 月 28 日（水）18:00～

□ 場所：イーストピアみやこ 市民交流センター 会議室 3

次 第	発言者	内 容
1 開会	大森教育部長	<p>ただいまから、平成 30 年度第 1 回宮古市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>私は教育委員会事務局教育部長の大森と申します。会議に入るまでの間、本日の進行を務めたいと思いますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、会議の開会にあたりまして、山本市長よりご挨拶を頂戴いたします。</p>
2 市長挨拶	山本市長	<p>みなさん、こんばんは。</p> <p>本日はお忙しい中、宮古市総合教育会議にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。</p> <p>また、伊藤教育長をはじめ、教育委員の皆様方には、日頃から宮古市の教育の発展のためにご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。</p> <p>新しく教育委員になられました杉本委員には、初めての総合教育会議となると思います。傍聴にも多くの皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の会議でございますが、「地元を知る教育について」と「保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について」を協議事項とさせていただきました。</p> <p>2 つの協議事項とも、総合教育会議では、初めて取り上げるテーマでございますが、これからの宮古の教育振興を考へるうえで、とても重要な分野と考えております。</p> <p>本日は、この 2 つの事項の現状・課題等を踏まえながら、市の教育行政を推進していくため、委員の皆様と活発な議論を交わしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
3 教育長挨拶	大森教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、教育委員会を代表しまして、伊藤教育長からご挨拶を頂戴いたします。</p>
	伊藤教育長	<p>おばんでございます。</p> <p>本日はお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>本会議につきましては、市長のマニフェストの中で骨格をなしている教育立市に係る政策について、教育委員の皆様から市長への様々ご提言をいただきながら、良い形で子どもたちが自立をして、将来的にこの宮古を支えていけるような人材になってほしいという願ひもあります。</p>

次 第	発 言 者	内 容
3 教育長挨拶	伊藤教育長	<p>本日の協議事項2つとも、お互いに関係があるものでございます。佐藤副市長をはじめ、部長さん方もおいでですので、色々なお話を聞いていただきたいと思います。</p> <p>また、たくさんの傍聴人の方もいらっしゃっておりますので、限られた時間ですけれども、皆さんで有意義な時間にしていききたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。</p>
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	大森教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速、本日の協議に入りたいと思います。</p> <p>議事の進行につきましては、宮古市総合教育会議運営要領第4条の規定によりまして、山本市長に議長をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
	山本市長	<p>はい。それでは、進行をさせていただきたいと思いますので、皆様方のご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、4番目にあります協議事項に入らせていただきます。</p> <p>まず、(1)の「地元を知る教育について」を議題にしたいと思います。</p> <p>最初に、事務局から説明をお願いしたいと思います。</p>
	佐々木学校教育課長	<p>それでは、(1)「地元を知る教育について」説明いたします。</p> <p>地元を知る教育に関わる学習として、現在小学校では、社会科の学習を中心として行っております。</p> <p>小学校3・4年生では、社会科副読本「わたしたちの宮古」を活用しながら、宮古の地理、産業行事、先人の業績やまちづくり等について学習を進めております。具体的には、資料3ページに、「わたしたちの宮古」の目次を載せてございます。また、その中から抜粋しまして、4ページに工業についての学習として、「いかせんべいができるまで」を掲載し、5ページには、地域の行事についての学習として、「祭りやおはやしを受けつぐ人たち」について掲載しております。</p> <p>小学校5年生では、宮古市の水産業を題材にして学習しております。</p> <p>資料の6ページをご覧ください。これは全国版の教科書になります。この教科書に、重茂のわかめや津軽石のサケ漁といった、宮古市の育てる水産業が取り上げられております。</p> <p>また、6年生では、東日本大震災を例にしながら、被災した地域を支援する政治の仕組みを学習しております。</p> <p>資料の7ページをご覧ください。このページでは、釜石市が取り上げられておりますが、学校におきましては、これを宮古市に置き換えて学習を進めております。</p> <p>資料の2ページに戻っていただきたいのですが、ここには、平</p>

次 第	発言者	内 容
<p>4</p> <p>協議事項</p> <p>(1)「地元を知る教育について」</p>	<p>佐々木学校教 育課長</p>	<p>成 32 年度から全面的に実施となる、小学校の社会科に関わる学習指導要領の一部を添付しております。</p> <p>小学校 3 年生におきましては宮古市を、4 年生では岩手県を、5 年生では国土と産業を、6 年生では国政と歴史を学習しているところでございます。</p> <p>このように、小学校で地元について学習してきたことを基に、中学校におきましては、総合的な学習の時間に、「地元を知る教育」に関わる課題を自ら設定しまして、その学習を進めております。</p> <p>一例としまして、資料の 8 ページに田老第一中学校の「学校だより」を添付しております。ここには、同校の宿泊研修における地元を知ってもらう学習、地元での職場訪問学習、森林感謝祭に取り組んだ生徒の学習を載せております。</p> <p>中学校では、地域産業や郷土の災害の歴史を知り、地域の復興を目指す意識の向上、復興に向けた自己の生き方について考えさせること、地域の防災や災害時に積み重ねてきた経験を知り、他校との交流学习の中で学んできたことを発信する学習を行っております。</p> <p>課題としましては、3 点挙げさせていただきました。</p> <p>1 つ目として、地元を知る教育を充実させていくためには、この教育に関わる地域の人材確保と連携が必要と考えております。</p> <p>2 つ目は、授業する側の教職員の宮古に対する理解を深めていくことが必要と考えております。</p> <p>3 つ目ですが、児童生徒が地元の歴史や産業を深く理解することを通して、地元を愛し、誇りに思う気持ちをさらに高めていかなければならないと捉えております。</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、ただ今の説明を基本として、皆さまがどのようにお考えになるかでございます。</p> <p>それでは荒谷委員さんから、ご意見等お願いします。</p>
	荒谷委員	<p>はい。今、学校教育課長さんが説明をした通りで、あまり広がりはないような気がするのですが、考えてきたこととお話したいと思います。</p> <p>まず、やっぱり大事なことは、人との関わりだと思います。学校では、子ども同士であったり、担任の先生と子どもたちとの関わりだと思いますし、地域に出れば地域の人たちとの関わりになると思います。</p> <p>こういった人と人との信頼関係が、第一なのだろうと思います。</p> <p>それから、小学校3・4年生の社会科副読本ですが、本日はいらしている皆様にぜひ見ていただきたいのですが、これは日本一と言っても良いくらいの素晴らしい内容だと思います。この本を使ってしっかりと指導すれば、子どもたちも宮古が大好きになることは間違いないと思います。</p> <p>どういった点が良いかと考えたのですが、カラー写真がたくさん載っている、それから、シンプルなイラストがあって分かりやすい言葉で説明されているので、子どもたちは楽しんで学ぶことができると思います。</p> <p>また、執筆している方々も、指導主事の方や、宮古市内の各学校の先生が協力しているかと思っています。地元の方もいらっしゃるって、社会科に詳しい先生のお名前もあるので、本当に素晴らしい内容だと思います。</p> <p>小学校5年生が学んでいる水産業、6年生の東日本大震災に関する学習、中学生の郷土に関する学習といいようにつながるわけですが、ここで1つ課題だと思うことがあります。それは、特にも初任の先生や異動してきた先生が、地域を知る学びの場の大切さだと思います。個人レベルで学習するというのも厳しいと思うので、学校単位など、方法はいろいろあると思います。</p> <p>ここに書かれている課題の中にもあるように、新しい先生たちなど宮古市を知ってもらうことが大切ではないかと思っています。</p> <p>それから、具体的な授業を自分自身でイメージすると、例えば副読本の中に出てくる写真に載っている方を教室に招いて、ゲストティーチャーとして授業をすれば、子どもたちは</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	荒谷委員	<p>喜ぶのではないのでしょうか。副読本に載っている方が実際に来たとなれば、それによって子どもたちの学ぶ意欲も高まると思います。</p> <p>あるいは逆に、地元の方の所へ子どもたちを連れて行って、交流させる授業も必要かと思います。</p> <p>もう1点、4月にサケの稚魚放流会があります。何度か行ったことがあります。幼稚園や保育所の子どもたちも来います。小学校に入る前の子どもたちも一緒に放流をして、「サケさん、行ってらっしゃい」という言葉を聞くと、小さい時からこのような行事に参加させるということも、地域を知る教育につながっていくのだろうと感じています。</p> <p>子どもたちの目、頭、心を鍛えながら地元を見つめさせていくというような思考が大切だと思います。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、橋本教育委員さんいかがでしょうか。</p>
	橋本委員	<p>はい。先ほど、荒谷委員さんからもお話があったように、社会科副読本「わたしたちの宮古」は、よくまとめられていて、文字が大きくてとても読みやすかったです。きっと、この本は子どもたちだけではなく、高齢者の方にも喜んでいただけるのではないかと考えています。</p> <p>この本を活用して、様々な体験ができるということは、地域に対して興味を持つということと、考える力が養われることを期待したいと思います。</p> <p>この本の中に、「まちの昔を探そう」、伝承について取り上げているところがあるのですが、郷土料理については取り上げられていなかったように思いますので、郷土の食についても扱ってみてはどうかなと思いました。</p> <p>最近、ちょっと残念なことがありました。皆さんも召し上がったことがあると思いますが、漬物のごぼう巻きを店頭で見ることがなくなったと思ひまして、先日市場で聞いたところ、現在作っている方が2人しかいないということでした。私は大好きで、店頭で並ぶと、とうとう冬だなと感じながらいただいていた。郷土料理や伝統的な食について、見つめ直すことも必要だと感じています。私がレシピを調べて作るというところまではさすがに難しいですが、なくなっていくことの寂しさを感じていました。</p> <p>課題についてですが、教職員における地元理解の推進という点について、教えてください先生たちに、私たちの宮古を熟知していただければ、それに越したことはないのですけれども、赴任し</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	橋本委員	<p>たばかりの先生などは、「先生も宮古について知らないことばかりだから、みんなも一緒に学ぼうよ」、「みんなが知っていることはどんどん先生に教えてちょうだいね」というスタンスでも良いのかなと思います。</p> <p>一方的に教えるだけではなく、生徒からも教えてもらうことができる場であってほしいなと思います。</p> <p>それから、「児童生徒の、地元を愛し、誇りに思う気持ちを高めること」についてです。長い目で見たときに、将来の宮古市に大きく影響を及ぼす部分ですけれども、なかなか一筋縄ではいかない重い課題だなと思っていました。うまくお話ができそうにないのですが、「就職でも大学でも、地元に戻ってきて、自分が培った技術や知識を地元のために活かしてください。みんな、帰ってきてね」という切なる思いがこの文章に表れているなと思いました。</p> <p>私なりに、宮古に対する思いや誇りをどのように思っているのかを考えたときに、地産地消がとても素晴らしいことだと思ったのですが、今の生活を維持するという段階ではなく、生きるということだけを考えました。そのときに、自然があふれていて、自給自足ができるまちではないかと思いました。例えば、東京であれば、お米はない、魚は獲れない、野菜も作れないので、おそらく生きるという段階で考えれば、生きてはいけないのだろうと思いました。ですが、宮古であれば、自給自足ができる素晴らしい場所だなと思いました。</p> <p>「誇り」を子どもたちにどのように伝え、育ませていくのか、やはり難しい課題だなと思いました。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、平井委員さんご意見をどうぞ。</p>
	平井委員	<p>私も、副読本を拝見しまして、荒谷委員さん、橋本委員さんがおっしゃるように、とてもよく出来ています。</p> <p>私は、勉強のことについてというよりは、地元を愛し、誇りに思う気持ちを高めることについて申し上げます。</p> <p>宮古市で何が好きかと言われると、海、山、川がずっと好きです。東京にも住んでいましたし、宮古に帰ってくる前には、毎年一人で島に行って散策していました。そこで思ったのは、地元の海がきれいであったし、地元のよく遊んだ川が一番好きだったということでした。</p> <p>今は、防潮堤ができて、海で遊ぶな、山も危険だから遊ぶな、かといって、子どもたちはゲームばかりしています。例えば、ノールールでたき火をしても良い、物を使って遊んでも良いというような遊び場も必要なのではないかと思います。</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	山本市長	<p>ありがとうございます。 それでは、杉本委員さんどうぞ。</p>
	杉本委員	<p>はい。地元を知る教育ということで、課題に挙げられている、人材の確保とその連携についてです。</p> <p>実際に、私も宮古第一中学校のPTAをやらせていただきながら、やはり地元の仕事に深く関わった生徒たちは、一回りも二回りも大きくなっていて、とても良い経験をさせているなと思いながら見てさせていただいておりました。</p> <p>それで、例えば地域の人材の確保が困難なのであれば、宮古商工会議所には、かなりの企業数が在籍しておりますので、そちらとの連携を進めていくことが出来れば良いのではないかと考えておりました。</p> <p>また、教職員における地元理解の推進についてということですが、なかなか難しい課題であり、新しく赴任された先生方に、より宮古を知ってもらうことが必要なのかもしれないと思います。しかし、そのことが先生たちの負担になってしまっているのではないかと思います。なので、生徒たちと一緒に宮古を知ることができる環境が一番良いのではないかと思います。</p> <p>最後に、児童生徒の、地元を愛し、誇りに思う気持ちを高めることですが、地元を愛せない、誇りに思えない気持ちというのはどこにあるのかなと思います。逆に、その部分を探るようなことも必要になってくるのではないかと思います。</p> <p>おそらく、色々なものが足りないなどといった意見が出てくるかと思いますが、そういったものを補っていくことも我々の役割ではないかなと思います。</p> <p>地元を愛し、誇りに思える気持ちが芽生えるような環境づくりをしていくことが必要だと思います。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。 では、伊藤教育長お願いします。</p>
伊藤教育長	<p>皆さんが話題にしている、社会科副読本「わたしたちの宮古」ですけれども、これは3年から4年に1回のペースで変わっていきます。次回は、平成32年に改訂版が出ますけれども、来年から新しいスタッフになります。漁獲高や周りの状況など数値が変わってきますので、直近の数値を入れた最新版を来年度以降に作成したいと考えております。</p> <p>この本は、各委員さんのお話にあった通り、非常に有効で、好評です。県内の様子を見ても、このくらいの予算をかけて、しっかりとした紙面にして取り組んでいる自治体は、そうそう多くないので、私たちの宝物としていきたいです。</p>	

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	伊藤教育長	<p>これは、小学校3・4年生版ですけれども、拡大的に考えていくことも選択肢の一つとっております。</p> <p>先ほどから、課題についても皆さんがおっしゃっていただきました。課題(1)につきましては、色々な方法がありますけれども、市内にある小中学校28校全てにおいて、外部から先生を招いて様々な昔の遊びや、読み聞かせ、それから杉本委員さんがおっしゃった青年会議所や商工会議所などの方々も場合によっては、学校に来ていただいたりと、協力を惜しまないスタンスです。これをもう少し、各学校の特徴に合わせた形で取り組んでいくことが重要だと思っております。</p> <p>2つ目ですが、宮古短期大学には100人の新入生が入学します。新入生を宮古短大協力会が主催し、短大と協力して、田老地区の学ぶ防災や崎山貝塚縄文の森ミュージアム、フェリーターミナルを、バスで回りながら案内する取り組みを行っています。これがとても好評です。</p> <p>同じように、宮古市が初任の先生方に対しては、宮古教育事務所と連携して、市内を案内できるようにしています。しかし、転勤によって初めて宮古に来た方には、そのような仕組みがないので、工夫していかなければならないと思っています。</p> <p>出来る限り、先生方に宮古市を知ってもらうように、この副読本も参考にしながら考えていきます。</p> <p>3点目が一番大きな課題です。</p> <p>先日、市内の中学校、高校の校長先生方との話し合いがありました。高校を卒業した後は、大学進学もあるだろうし、就職、専門学校もある中で、そのあと宮古に戻ってきて宮古を支えていけるような人材に育てていくためには、高校として卒業時にどのような形で送り出すのか。これについても、ぜひ考えてもらいたいと高校の校長先生にも話しました。</p> <p>また、宮古商業高校と宮古工業高校の統合が再来年に迫っていますが、人材育成のためにはやはり、小・中・高の先生たちが共通の想いを持つことが重要です。</p> <p>宮古短大の卒業生も、卒業した後、どのような進路を選択して宮古市に関わってくるのかということも、色々な場で情報共有していきたいと思えます。</p> <p>それから、地元を誇りに思うということは、ただ地元を思うだけでは誇りにならないので、1年間200日の普段の学校生活ですけれども、やはり自尊感情が一番弱いです。これは高校生も一緒です。自分が得意なものはこれだというように、自信につながるような感情を持てるようになるためには、もちろん先生のサポートも必要ですし、家族の方全員が宮古を想う気持ちが大切です。</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	伊藤教育長	<p>やはり、パッチワーク的なやり方では出来ることではないので、普段から宮古の良さや宮古の人の良いところはどこだろうか、学校でも家族でも話題にしていくことが大切です。</p> <p>自尊意識を高めるには時間がかかるでしょうし、永遠の課題だと思うので、様々な方法を考えながら、常にアプローチしていく必要があると思います。</p> <p>3点の課題については、私自身が出来ることを考えながら取り組んでいきたいと思います。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員さん方から、様々なご意見等いただきましてありがとうございます。</p> <p>このように、素晴らしい教材もありますが、私は、全てを完璧に覚えるようなことは必要ないと思います。宿題を残して、都会に行ったあとに、その宿題を探しに地元に戻ってくることも良いと思います。</p> <p>地元を知る教育において、子どもたちが興味を持っていることに対して、学校だけではなく地域の方も一緒になって、「あのことが知りたい」「こんなことが出来る」「こんなものがある」というように、興味を持たせて、郷里を知ってもらえば良いのではないかと考えます。</p> <p>先ほど、佐々木学校教育課長が説明したように、学校も全てを教えようとする、逆に、子どもたちがマイナスな気持ちを抱く可能性もあるので、そうならないようにしなければいけないと思います。もう少し余裕を持って、平井委員さんがおっしゃるように、火を自由に使って遊んでも良い場所や、自由に飛び込んで泳げる川のような場所があるくらい、自然が豊かな地域だということをお話していかねばならないと思います。</p> <p>最終的には、「森、川、海とひとが共生する安らぎのまち」というところに行き着きます。ある方に、これを理解することができないと言われたときには、すごくショックでした。</p> <p>やはり宮古市は自然豊かな場所で、昔からの食べ物や遊び場がたくさんあります。最近はそのような遊び場も少なくなっていますが、そのような場所は危険だと言って遊ばせないようにするのではなく、危険性をなくした環境を作って、その中でどんどん面白い試みをしていけば良いと思います。</p> <p>宮古という、自分たちが生まれ育ったところは面白い場所で、それだけではなく、ジオパークもあって有意義な場所でもあるというようなことを一つでも二つでも多く子どもたちに教えてあげると良いと思います。</p> <p>完璧にいかなくて良いと思います。完璧にいかなかったら、宿</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1) 地元を知る教育について」	山本市長	<p>題という形で残しておけば良いんです。子どもたちが大きくなってから、良さを味わいなさいと。そのときは、自分で働いて得たお金で宿題に取り組みなさい、ということで良いと思います。</p> <p>なので、この部分を学校教育と地域の方たちが、子どもたちに伝えていけば良いと思います。</p> <p>少し話はずれますが、現在、宮古PR隊を作っています。第2号に認定された方が、宮古市出身の方ですけれども、この方が今まさに、「ひゅうず」といったような色々な郷土食を研究しています。現在は東京にありますが、東京でとあるお店の1日女将を経験されて、郷土食を使った料理を提供しました。そして、そのような料理を食べながら、宮古市のお酒を飲むわけですよ。</p> <p>このように、郷土食に高い関心を持って取り組んでいる方もおります。とりとめのない話ですが、このような取り組みも併せながら、子どもたちに様々な食を味わわせることも大事だと思います。</p> <p>地域的な食をまずは覚えさせていくことです。昔は、そういったものを自然に覚えていたはずですが、今は違います。山に行って転げ落ちることや、木の株に頭をぶつけるようなこともありました。今では大変なことになってしまいます。</p> <p>海で泳いで遊んだことなど色々な思い出がありますが、そのようなことを通して宮古の地域というものを教えていけば、子どもたちからも自然と疑問が出てくるはず。そのときに、地域の方たちが教えてあげるといように取り組んでいくことが出来れば良いと思います。</p> <p>また、学校は学校として教えることが違って良いではないかと思えます。海のそばに住んでいる子どもたちには海のことを教えれば良いし、山のそばに住んでいる子どもたちには山のことを教えていけば良いと思います。なので、あまりカリキュラムに縛られることなく、地元を知るといのはそのような教え方をしていけば良いのではないかと考えます。</p> <p>そのあたりをもう少し柔軟に考えて、この副読本も宮古のどの場所でも教えられるように網羅して作成すべきです。その中で、ピンポイントで教えたい地域があれば、それについてはその地域の方や学校ごとで教えていければ良いと思います。</p>
	伊藤教育長	<p>市長がおっしゃる通り、教科で教えるということですね。教科書は一字一句間違いなく入れ込むということはやっていないので、それを補足してより深く学ぶために副読本があります。</p> <p>各教科の副読本の使い方は、担任の先生方も事前に研修を受けるなど、学校独自で濃く教える部分とそうではない部分とで、かなり濃淡があります。</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	伊藤教育長	<p>重茂小学校では、新聞にも載りましたが新巻鮭づくり。親と子どもたちが一緒になって作りました。川井小学校では、様々な伝承活動を行っていますし、新里地区でも行っています。そこについては、先輩たちが伝統ある歴史の中で培ってきた特色ある地域性が非常に尊重されています。</p> <p>それから、かつて花輪小学校では田植えからコメ作りまで教えていましたが、こういった作業は子どもたちだけでは出来ません。保護者の協力もあって行っていましたが、共働きという状況もあって、かなり厳しくなってきたというのが実態です。ですからそこは、柔軟に変えましょうと。計画に縛られるのではなくて、柔軟に対応すべきです。これは、独自の地域性もあるので、もちろんカリキュラムの中の指導要領に基づいて教えますが、そこに柔軟性が必要です。</p> <p>やはり市長がおっしゃる通り、そのような意識づけで校長会議等でも学校ごとの独自性を出して地域と連携することが重要だと伝えていきます。</p> <p>家庭の協力だけでは、なかなか出来ません。また、地域でおいでになる方の中にはご高齢の方もいらっしゃるので、柔軟な計画作りを行っていくべきです。</p> <p>これも、私たちが地域を知るという意味でも大切なことですので、やはり柔軟な対応をしていかなければならないと思います。</p>
	山本市長	<p>今の教育長のお話の中で、考えていかなければならないと思ったのが、閉伊川を使った遊びが何か出来ないものかと思いました。川を使った遊びや、海でも安全を確保したうえで、海遊びや磯遊びのようなことをしていけば良いのではないかと考えています。ただ、教える側の人間がいないとダメです。</p> <p>以前は、親も一緒に泊まりがけのキャンプに行って、子どもたちに好きなように遊ばせて、周りで親や地域の方が見守ってあげるようなことをやっていました。そうすれば、たき火をしても見ているのであれば良いのです。</p> <p>安全は確保しながら、宮古のような地域でなければ出来ないことをやらせた方が良いでしょう。そしてなるべく、家に帰ったらボタンとすぐ寝て、ゲームなんかしないようにしたら良いと思います。</p>
	橋本委員	<p>内陸だとみんなスキーができると思われるように、宮古は沿岸なのでみんな泳げると思われるようですが、子どもたちを見ると泳げない子がたくさんいます。海で泳いだことがない子もいます。スイミングスクールで体を鍛えるために泳いでいて、ある程度泳げる子はいますが、スイミングスクールにも行っていない子どもは、小学校の体育の授業での水泳で平泳ぎやクロールの息継</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (1)「地元を知る教育について」	橋本委員	<p>               ぎができないまま、プールがない中学校に入ってしまったら、そのまま高校に入ることになるので、高校に入ってからびっくりされる子が多いみたいです。                やはり、水に慣れることや、市長がおっしゃったように地域的にも海のそばなので、海遊びをさせることも必要ではないかと思えます。                私が子どもの頃は、あちこちで毎週のように泳ぎに行っていたようなことを思い出しました。             </p>
	山本市長	<p>               ただ、そのためには、周りの力や社会の力が必要なので、やはりその部分をどうしていくのかを考えていかなければならないと思えます。                地元を知るといのは、学校だけでは限界があるので、その限界を破って教育をしていくということが大切なのではないかと思います。                このあたりでよろしいですか。課長さんたちもよろしいですか。  <b>【発言なし】</b>                もし、オブザーバーの方で、何か話したいという方はいらっしゃいますか。傍聴に来ていただいている校長先生方はいかがですか。  <b>【発言なし】</b>                はい。                色々お話ししてきましたけれども、私は、地元を知る教育がこれだというものはないと思えます。やはり、皆で工夫しながら子どもたちあるいは大人に対して働きかける必要があると思えます。                自分の住んでいる地域をよく知らない、良いとも悪いとも言えないと思えます。                一つ例を挙げると、ポートセールスに行くと、宮古はどのような場所ですかと聞かれたときに、何も言えないようではダメですよ。すらすらと言えるようでない。                宮古に帰ってきたときに、面白いことがあると感してもらうことができれば、若い人も戻ってくるきっかけになると思えます。                このように考えながら、地元を知る教育について進めて参りましょう。よろしくお願ひします。                 それでは、次の協議事項に移らせていただきます。                (2) 保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について、事務局から説明をお願いします。             </p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (2)「保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について」	佐々木学校教育課長	<p>「保健福祉部と教育委員会との連携」ということで、特に幼稚園、保育所、こども園、小学校との連携について説明させていただきます。</p> <p>保健福祉部と教育委員会は、できる限り早い段階から協力・連携をしております。小学校への就学については、特にも特別な支援を必要とする幼児等の就学をスムーズに進めていくために連携をしております。</p> <p>資料の1ページには、どのような連携をしているのか、具体的な事業を挙げましたが、次ページ以降に、さらに具体的な資料を載せておりますので、そちらを使って説明いたします。</p> <p>まず、このような連携を通して、小学校へ入るとどのようなことがあるのかを保護者の方知ってもらうため、幼稚園や保育所などの年長の保護者あてに、「入学の1年前からガイドブック」を配布しまして、小学校就学に関わる相談のきっかけ作りとして利用していただいております。</p> <p>資料の6ページから9ページには、同リーフレットを拡大したものを載せてありますので、ご覧いただきたいと思います。</p> <p>入学の1年前から、小学校の就学に関わっての周知を図ることを目的に連携しています。</p> <p>次に、資料の10ページ、11ページをご覧ください。一人一人の子どもの状態に応じた支援と相談についても連携を行っています。その相談に関わるリーフレットを載せております。このような連携を通して、相談をしやすいよう努めております。</p> <p>次に、12ページ、13ページをご覧ください。特別な支援を要する幼児等については、幼稚園や保育園等、就学前の様子や関わりの情報を、就学先の小学校により深く理解してもらうためのシートである「PASS（パス）」を作成してございまして、教育支援委員会に諮問するための資料として活用してございます。</p> <p>具体的には、保護者に承諾していただいたうえで、このシートに子ども（本人）のプロフィール、保護者の希望、そして地域での様子などを詳しく記述してございます。</p> <p>このシートは、国でも作成と活用を求めている、個別の教育支援計画というものでもあり、岩手県内の各自治体からも、ぜひ参考にしたいということで連絡をいただいております。</p> <p>このようなシートやリーフレットの作成を通して、保健福祉部と教育委員会として、幼稚園、保育所、こども園から小学校への接続をスムーズに進めていくための手立てとして講じております。</p> <p>資料の4ページに戻っていただきたいのですが、このページには、接続をスムーズにするために幼稚園や小学校がすべきことと</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「保健福祉部と教育委員会との連携(幼・保・小の連携)について」	佐々木学校教育課長	<p>して、幼稚園教育要領から抜粋したもの等を載せております。</p> <p>具体的には、障がいのある幼児や児童を含めた交流の積極的な実施と、幼児教育から小学校教育への接続部分において、学習内容等を工夫することを進めていくことなどが記述されております。</p> <p>資料の2ページに戻っていただきます。各幼稚園等では、小学校への就学をスムーズに進めるために、交流学习を積極的に進めております。</p> <p>課題としましては、昨年度まで教育委員会に所属していた、子ども発達支援センターが本年度から保健福祉部こども課へ移りました。ただ、9月まで新里総合事務所内の同じフロアだったこともあり、現在もスムーズな連携が図られております。</p> <p>今後、多様なニーズに対応していくためにも、この連携を維持するとともに、さらに深めていく必要があると考えております。</p> <p>また、幼稚園等や各学校におきましては、学区が多岐にわたることもありますので、情報共有の場の設定と時間の確保が難しいとの声が上がっております。</p> <p>PASS(パス)などの資料を基に、全ての幼児についての情報共有が確実に図られる体制を構築していきたいと考えております。</p> <p>また、資料の4ページにも記載しておりますが、幼稚園から小学校への接続部分に関して小学校が作成する、スタートカリキュラムと呼ばれているものについて、幼稚園、保育所等と小学校の教員との連携を深めながら理解を深めていく必要があると考えております。</p> <p>最後になりますが、今後教育委員会として課題に対応していく事業の一つとしまして、スタートカリキュラムの理解促進を図るために、みやこ幼・保・小ネットワーク事業により取り組んできた成果を1月10日の教育研究所発表会にて披露いたします。</p>
	山本市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>こども課からの立場としての説明もお願いします。</p>
	伊藤こども課長	<p>こども課としましても、ただ今学校教育課から説明があったように、小学校へのスムーズな進学が出来るように連携をとりながら進めております。</p> <p>その中でも、アプローチカリキュラムに関しましては、岩手県内で先進地となっております。各市町村からも様々なお問い合わせもいただいております。現在は、県内14市のうち、7市においてアプローチカリキュラムを作成しております。</p> <p>このような取り組みの中で、やはり小学校1年生の壁というのはございますので、これからも教育委員会と連携を深めながら進めていきたいと思っております。</p>

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (2)「保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について」	山本市長	医療や健康という部分についてはどうなっていますか。
	中嶋保健福祉部長	その部分につきましては、研究段階の提案事業ということで、それに関するデータを集約し、提供していくという体制をとっています。直接学校への提供はないのですが、データを集約し、活かしていくという取り組みを今年度から始めておりますので、その提供方法において、どのような工夫ができるのか検討している段階です。
	山本市長	PASS（パス）というシートは、全ての子ども分あるのですか。
	佐々木学校教育課長	特別な支援を要する可能性のある子どものみについて、保護者の承諾を得て作成しているものでございます。
	山本市長	子どもたち全員ではないということですね。全員分作成してはどうでしょう。 岡崎さん、どうぞ。
	岡崎こども発達支援センター所長	まず、幼稚園や保育所から小学校に就学する際には、幼稚園であれば指導要録、保育所であれば保育要録というものがございまして、全員分作成をされているのでそれが小学校へ渡されることになっております。ただ、それだけでは不足する部分が必ずありますので、保護者の承諾を得て、その子に対して、今までどういった支援を行ってきて、その結果どうだったのかを詳しくまとめて文書として引き継ぐというシステムになっております。
	山本市長	PASS（パス）ではないけれども、子どもについて様々なことを記述したものは小学校へ引き継がれるということですね。
	岡崎こども発達支援センター所長	現段階でそのようなシステムがあって、それよりもより詳しいものになっております。
	山本市長	つまり、2段階になっているということですね。
	岡崎こども発達支援センター所長	そういうことです。
	山本市長	そのようなシステムがないのではなくて、2段階ですね。その中で詳しく記述されているものを、PASS（パス）と呼んでいるのですね。 PASS（パス）ではなくても、子どもの様子等を記録したものは小学校へ引き継がれるのですね。
岡崎こども発達支援センター所長	そういうことです。指導要録や保育要録という形で引き継がれます。	
山本市長	ではこれらに関して、例えば希望や意見が教育委員の方からあれば、ぜひ伺いたいと思いますので、今度は逆回りでいきましょう。杉本委員からお願いいたします。	

次 第	発言者	内 容
4 協議事項 (2)「保健福祉部と教育委員会との連携(幼・保・小の連携)について」	杉本委員	<p>はい。正直、私も勉強不足でして、今回このような仕組みがあることを初めて知りました。</p> <p>この仕組みは、非常に良いものだと感じました。様々な課題もあるのですが、私には少し難しい話でありまして、これからさらに勉強していかなければと思いました。</p> <p>デリケートな部分の情報を扱っていかなければならないので、非常に神経を使っているのだろうと感じました。これからもさらに良い事業になっていくように、協力していけたらと思っております。</p>
	山本市長	<p>続いて、平井委員お願いします。</p>
	平井委員	<p>はい。私の子どもたちの出身幼稚園では、以前から多様な子どもたちの受け入れを行っていて、みんな一緒のクラスなので、小学校に入学した際に、多様な行動をする子どもがいても、その幼稚園出身の子どもたちはあまり動揺することがないです。全く平気みたいです。他の子どもたちは、そわそわしていても、その幼稚園出身の子どもたちだけは大丈夫なのです。</p> <p>小さい頃から接していれば、全く偏見もないです。</p> <p>ですから、交流というのは本当に大切だと思います。大人の方が偏見を持ちやすいので。小さい時から行うべきだと思います。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>少し難しい話になってしまいましたね。</p> <p>では、橋本委員お願いいたします。</p>
	橋本委員	<p>はい。幼・保・小の連携についてということで、とても丁寧に取り組んでおられると思いました。</p> <p>PASS(パス)についても、保護者や子どもたちに対して、時には立ち入った話になってしまっていて色々なご苦勞があるかと思いますが、これまで以上に継続的に実施してほしいと思います。</p> <p>課題について、支援を受けていた子どもを持つ方々に話を聞くことができました。話を聞いた感想としては、つらい思いを子どもも保護者もたくさんしているということと、先生との相性が悪いと子どもが落ち着かなくなってしまうなど、様々なことをおっしゃっていました。</p> <p>保護者も行政も相互の立場や言い分があると思いますが、納得がいくまで保護者と話し合い、できるだけ保護者に寄り添った形にしてほしいと思います。</p> <p>何度か市内でも、そういった支援を受けてきた子どもたちが働いているところを見ることがありますが、先生や保護者、行政の方たちが頑張ってくれたおかげで、就職をして仕事をしていると思うと、これからも頑張つてねという応援する気持ちと安堵の気持ちでいっぱいになります。イーストピアみやこの軽食コー</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「保健福祉部と教育委員会との連携(幼・保・小の連携)について」	橋本委員	<p>ナーでもそういった人たちが働いていますけれども、昨日その姿を見て思わず声をかけそうになりましたが、一生懸命働いているので温かく見守りました。</p> <p>長い道のりではありますが、先ほど平井委員さんがおっしゃったように、学校を卒業して就職してもまたその先があると思うので、小さい頃から見守ってあげることが大切なのかなと思います。</p>
	山本市長	<p>難しい話になってしまっていて、申し訳ないです。</p> <p>荒谷委員、お願いいたします。</p>
	荒谷委員	<p>私は、特別支援教育が教育の原点だと思っています。</p> <p>昭和54年に教員に採用になったのですが、初任校が現在の恵風支援学校でした。そこで4年間、自閉症の子どもたちなどハンデがある子どもたちと一緒に学ばせていただきました。</p> <p>当時から、崎山小学校とはまゆり養護学校では交流学习をしていましたが、崎山小学校の子どもたちは、障がいを持っている子どもたちとあまり手をつなぎませんでした。崎山小学校の子どもたちに偏見のようなものがあって、交流も形だけという様子でした。その頃、どうすれば交流が上手くいくのかをみんなで考えて研究したという思い出があります。</p> <p>それから20年経って、崎山小学校に教頭として赴任したときには交流がスムーズになっていました。全然違和感がなく、崎山小学校の子どもたちもはまゆり養護学校の子どもたちも、仲良くしていました。それから、文部科学省指定の人権教育を進めて高い評価を得たということも覚えています。</p> <p>なので、スムーズにいくまでに20年かかったなと思っています。その間の、保護者や教職員の方たちの目に見えない努力が実を結んだと感じました。</p> <p>現在、良い形で交流が進んでいるので、これは評価すべきところだなと思っています。</p> <p>私の経験からの話ですが、やはり子どもたちは早期発見、早期治療ということで、早く子どもの特徴を見つけて、全職員で共通理解をして、保護者と足並みを揃えることがすごく難しかった気がします。保護者が理解を示しても、その後ろにおじいさんやおばあさんがいるわけです。その方たちに理解をいただくことが難しかったです。「自分の孫は外には出さない」ということを言われたこともあります。</p> <p>でも今は、それほどでもないように思いますが、障がいを持つ子どもさんのお父さんとお母さんに寄り添っていかなければならないと思います。</p> <p>このような点からも、PASS(パス)は重要なもので個人情報も</p>

次 第	発 言 者	内 容
4 協議事項 (2)「保健福祉部と教育委員会との連携(幼・保・小の連携)について」	荒谷委員	<p>載っているので慎重に扱っていかねばならないと思います。例えば、こだわり行動という項目は、自閉症の可能性のある子どもによく見られることなので、すごく重要です。</p> <p>やはり、PASS (パス) を上手く活用すれば、小学校に就学する前の準備にとっても役立つものだと思います。</p> <p>ある子どもさんの話ですが、小さいときに医者から自閉症と診断されました。その子どもは中学生になりましたが、ごく普通に生活しています。お母さんは、子育てにすごく努力して、学校の先生や保護者とも喧嘩したけれども、とにかく子どもをしっかりと育てたかったということです。</p> <p>でもやはり、学校では大変だったと思います。</p> <p>そのような事例もありますので、子ども一人一人の個性を生かしながら育てていかねばならないと思います。改めて、特別支援教育というものは、教育の原点だと感じさせる言葉です。</p>
	山本市長	伊藤教育長、お願いいたします。
	伊藤教育長	<p>委員さん方から様々な意見が出ましたけれども、私も昭和 50 年から教員として勤めておりました。荒谷委員さんがおっしゃったように、昭和 50 年代の環境は、障がいを持つ方には厳しいものでした。厚生労働省も文言を変化させていって、特殊学級という言葉から特別支援学級という言葉に変わったように、時代背景がどんどん変化しています。</p> <p>近年は、皆さんご存知のとおり、パラリンピックが非常に注目を浴びています。障がいの有無に関わらず、共生していく社会になってきました。また、市役所などの建物も、ユニバーサルデザインとなり、人にも環境にも優しいものづくりが主流になっています。</p> <p>障がいを持った方も自分自身から発信するようになってきたので、昭和時代とかなり変わったと思います。</p> <p>このような時代背景を意識する必要があると思います。</p> <p>PASS (パス) は、岩手県内にも非常に自慢できるものですが、個人情報なので取扱いは非常に注意が必要です。</p> <p>子ども自身が自分自身の障がいを理解し、保護者の方にもしっかりと見つめていただいて、どのように自立できるのかということの後押しする意味で一番の支えになると思います。なので、情報は正確に捉えることが大切です。</p> <p>また、子どもたちに対していじめ調査をしますと、障がいを持った子どもを非常に尊重するという環境になっています。</p> <p>具体的には、崎山小学校と崎山中学校、恵風支援学校の交流事業が非常に良好です。モデル校として取り組んでいるこの実践事業は、福祉教育の根幹となるもので非常に自慢できるものです。</p>

次 第	発言者	内 容
<p>4</p> <p>協議事項</p> <p>(2)「保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について」</p>	<p>伊藤教育長</p>	<p>他校でも、小学校と中学校の連携の中で、支援が必要な子どもに対しては、宮古市では現在 40 名近い支援員が配置されています。</p> <p>先ほど平井委員さんがおっしゃったように、障がいを持つ子どもさんと触れ合ってきた子どもたちは、差別などということはないです。</p> <p>現在の市の福祉教育は、保健福祉部と連携して取り組めていて、非常に良い方向に進んでいると思っています。これからは、子ども課が新設されたこともあるので、医療、福祉の分野とさらに連携を深めていくことが重要です。</p> <p>宮古市教育委員会には、指導主事の先生方が 4 名いて、特別支援教育についても全員がしっかりと理解していますので、子ども課とたくさんの接点を持ちながら現場で様々な取り組みを行っています。これは政策の中でも、非常に大きな位置づけだと思います。</p> <p>発達障がいを持つ子どもたちにも様々な事例があります。以前までは、自閉症と発達障がいというような区切りがありました。今は専門の先生方にしっかりと診ていただいて、気持ちが落ち着かないなどといった症状がある子どもには、診断名を付けて薬を処方していただいています。市の小児科医の先生方の対応も非常に上手く進んでいますので、やはり今まで以上に医療や福祉との連携、学校も含めて、全体的な連携を図っていく必要があると思います。</p> <p>ご家族の方が一番大変だと思いますので、その方たちも含めて一緒になって、どのような方向に進めていくのかを話し合う場は常に必要です。</p> <p>学校現場にとっても、障がいのある子どもさんと、やはり一緒になって教育していくということはどここの学校でも同じだと思います。</p> <p>宮古市は福祉分野において、非常に誇りが持てると思います。</p> <p>先日、視察した北上市も福祉分野が非常に素晴らしかったです。</p> <p>宮古市では、年間を通して特別支援に関わる会議に名前が挙がる子どもたちが、約 200 名います。現在、小中学生は全体で約 3600 名です。個別の事例がたくさんあります。</p> <p>学校だけでも家庭訪問はできませんし、保健福祉部だけでもできないと思うので、やはり今まで以上に連携を密にしていかなければならないという思いを強く持っています。</p>
	<p>山本市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>子どもたちに対して、健康面、教育面など様々な視点から捉える必要があります。子どもたちにとって、この時期は非常に大切</p>

次 第	発言者	内 容
<p>4</p> <p>協議事項</p> <p>(2)「保健福祉部と教育委員会との連携（幼・保・小の連携）について」</p>	<p>山本市長</p>	<p>だという意識を持って子ども課を新設しました。すでに設置されている市もたくさんありました。佐藤副市長と相談しながら、教育委員会に設置した方が良いのか、保健福祉部に設置したほうが良いのか、かなり検討を重ねました。</p> <p>これまでは、健康という視点が入っていなかったのです。この部分については未だに健康課で所管しているので、いずれは健康という部分も子ども課の中に入れていたいという思いがあります。そうすると、子どもの成長に対して、丸ごとみんなで応援する形ができます。</p> <p>様々な家庭がある中で、家庭だけで子どもたちを育てられる時代ではないです。宮古市全体で、みんなで育ててあげようと思います。将来的なことを考えて、教育委員会と全面的に連携することが大切です。</p> <p>校長先生方がいらしているので、少し言いにくいのですが、学校社会は少し閉鎖的なのかなと思います。教育委員会の職員が訪れることには抵抗を示さないのですが、教育委員会以外の部署が訪れるためには、かなりハードルが高いです。なので、教育委員会が力を入れて、学校との間を上手くつないでいきたいと思えます。校長先生方の中には、そんなことはないというような顔をされている方もおりますが、そのように捉えられがちなので、子どもたちの健康、成長、教育など全ての面から、市が取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>現在取り組んでいるように、子ども課が中心になりながら PASS（パス）も作成しましたし、支援が必要な子どもたちにはしっかりと支援ができる体制がしっかりと整っていますので、そこにやはり健康面の分野を取り入れて、健康的な子どもを育てていくことができるようにしていきたいと思っています。</p> <p>そして、地元を知る教育も進めていながら、子どもたちも頑張っていますので、私もぜひ応援していきたいと思っています。</p> <p>教育委員会と保健福祉部が一緒になって、頑張っていきたいと思います。よろしくをお願いします。</p>
<p>5</p> <p>その他</p>	<p>山本市長</p>	<p>少し「その他」ということでお話ししたいと思います。</p> <p>市の教育については、教育委員会事務局が主体となって事業などは行いますが、教育に関する施策やその方向性はこの場で決まります。このことを分かっていないと感じています。この点につ</p>

次 第	発 言 者	内 容
5 その他	山本市長	<p>いては、ぜひ教育委員の方々にもご理解いただきたいと思いません。</p> <p>事務局は事務的な手助けをする役目なので、施策などを決めるのは教育委員さん方です。教育長を中心として、教育委員の方々がこの場で物事を決めて、様々な取り組みを行ってほしいと思います。子どもの教育や生涯学習、文化的な事業も含めて教育委員さん方が決めるということ、もう一度理解していただきたいと思っています。</p> <p>教育振興基金は、私が教育委員を務めていた時、色々なことをやりたいと思ったのですが、自分たちがやりたい施策に対して、財源がしっかりとしていなかったのです。なので、例えば行いたい事業があれば、市長部局に相談をして財源について、判断していました。そして、私が市長に就任したときに、教育委員会の中で、1年間を通して、取り組みたい施策のために一定の金額を持たせるということで積み立てさせていただきました。</p> <p>最初の頃は、「四つ葉の学校」といって新里地区の4つの小学校の子どもたちを、1週間に何度か集めて色々な教育をしました。そのように、4つの小学校が1つの小学校のような形で運営するようなことを行っていました。この事業は、文部科学省から認められて、2年間補助を受けることが出来ました。</p> <p>今でも残っている事業は、JHS パワーアップ事業です。規模が小さい中学校や指導者が不在の中学校の子どもたちを集めて、クラブ活動を始めようということからスタートしたものです。</p> <p>あともう1つは、ニュートンスクールです。その頃は、算数と理科が弱かったので、実験を行いながら楽しく学ぼうということから始めました。</p> <p>この3つの事業を、「新しい宮古の教育プラン」の中で取り組みました。何か取り組みをしたいと思ったときのために、教育振興基金を積み立ててありますので、教育委員さん方に活用していただきたいと思っています。</p> <p>しっかりと財源が用意されていて、教育委員会の中で様々な取り組みができますので、ぜひとも積極的に関わってほしいと思います。例えば、川遊びをさせたいと思えばできますので、しっかりと教育長を中心に教育委員さん方も含めて、決めてほしいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>何か意見等ございますか。取り組んでみたい事業等でもかまいません。</p> <p><b>【意見等なし】</b></p> <p>もう一度、皆さんに教育委員とはという内容のものを配布してみたいかでしょうか。</p>

次 第	発 言 者	内 容
5 その他	山本市長	<p>財源も用意してありますので、ぜひご活用ください。</p> <p>事務局は事務作業を行うためにおりますので、事務局が決めるような状態ではダメです。教育委員の皆様が決めていかなければなりません。ぜひ、よろしくをお願いします。</p> <p>教育委員の皆様から何かございませんか。</p> <p>はい、平井委員お願いします。</p>
	平井委員	<p>ラグビーワールドカップが近いです。校長先生方もいらしているので、タグラグビーを小中学校で普及していただきたいです。</p>
	山本市長	<p>タグラグビーとはどのようなものですか。</p>
	平井委員	<p>タグラグビーは、タックルがないラグビーで、2本のタグを腰に巻いて、そのタグを取ることがタックルの代わりにになります。ルールはノックオン、スローフォワード、オフサイドの3つだけですけれども、ルールをより簡略化すればより目が向けられるのではないかと思います。</p>
	山本市長	<p>事務局に提案して、ぜひ取り組んでいただくべきだと思います。</p> <p>機運を高めるためにも、末広町などを利用して、最近、話題になっている「ストリートラグビー」を警察署などとも連携して取り組んでみることも必要だと思います。</p>
	伊藤教育長	<p>先日、市長を会長にしてラグビーの「スクラムミーティング」も設立されて、これから機運を高めていくには絶好のタイミングですので、釜石市で実践されている取り組みなどを参考にしながら検討してみたいと思います。</p>
	山本市長	<p>子どもたちの教育について議論していますが、もちろん文化的な分野もありますので、よろしくをお願いします。</p> <p>現在、落語協会との間で、宮古で落語を開催しようということで話し合いを進めていて、どこかの学校をモデルにして、その学校に落語家の方が訪問して落語を教えるというようなことを考えております。</p> <p>校長先生方に手を挙げていただければ、そのような取り組みも可能だと思います。</p> <p>宮古市から落語家が生まれたらいいなと思っています。また、音楽家やオーケストラも招待したいです。</p> <p>やはり、子どもたちに多様な経験をさせてあげるということも私たちの役割だと思います。都会のように大きな建物を建てるというようなことはできなくても、オーケストラや落語を観る機会や、スポーツの分野でも運動公園があるので、ラグビーや色々な競技を経験できる機会も作ってあげられると思います。</p> <p>どんどん色々な取り組みを行ってほしいと思います。期待しておりますので、よろしくをお願いします。</p>

次 第	発 言 者	内 容
5 その他	山本市長	<p>それでは、本日の2つのテーマは難しいものではありませんでしたがけれども、これからも教育委員会だけではなく、保健福祉部などと連携を深めていくながら、様々な取り組みを行っていきたく思いますので、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>それでは、事務局にお返しします。</p>
	大森教育部長	<p>以上をもちまして、平成30年度第1回総合教育委会議を閉じさせていただきます。長時間にわたり、大変お疲れ様でございました。</p>